

バイデンの選んだ国家安全保障担当者：アメリカは中国の隆盛に力を入れよ

ジェイク・サリバンが中国共産党との関係改善を求める

NeonNettle

November 24, 2020



中国共産党の「隆盛」は、アメリカにとって激励すべきものだ、と民主党指名候補者ジョー・バイデンの選んだ、米国家安全保障省アドバイザーJake Sullivan は言った。

大統領選の結果がまだ確定していないにもかかわらず、バイデンは、彼の内閣の指名の追加を発表し続けている。

月曜日、バイデンの長期のアドバイザーだった、サリバンが、前副大統領によって、もし彼が勝った場合、国家安全をリードする者として選ばれた。

サリバンは、バイデンが以前にオバマ政権の副大統領だったとき、そのアドバイザーとして仕事をした。

彼はまた、ヒラリー・クリントンが国務長官だったときに、彼女のために働いた。

もしサリバンのような地位につくなら、バイデンのホワイトハウスは、中国によって歓迎されるだろう——もし、彼のかつてのコメントがそれを意味するなら。



2017年、Lowy研究所（シンクタンク）で行われた講義で、サリバンは、対外政策専門家Owen Harriesが、「封じ込め政策」を、自ら敗退するものとして、黙認するような考えに反対したのは、「正しい」と言った。

「我々は中道を行くことを考えるべきだ——中国の隆盛を、開かれた、公平な、ルールに則った、地方的秩序として、奨励する道を取らねばならない」と、サリバンは言った。

「これは注意と慎重さが必要で、戦略的な先見の明を要するだろう。そしてそれは、より根元的に、持続する注意を要求するかもしれない。

「気づいておられるかもしれないが、こういったことは、現在のワシントンでは、十分に用意されていないことだ。」

同じ講義でサリバンは言った——中国政策は、単なる相互のつながり以上のものである必要がある、「それは我々のつながりでも、平和的で積極的な中国の隆盛に、より大きく資する環境を、つくり出すものでなければならない。」

サリバンの考えでは、繁栄する中国、とくに経済的観点からの中国は、グローバルな経済にとって役立つものだ——それは「中国が上昇していくシステムのパラメータ」によるとしても。



中国はおそらくバイデンの大統領就任を歓迎するだろう

そのような感情は中国に対する現在の政策と共鳴する。アメリカは、貿易の合意をなだらかにするために、国内の会社が活動できる、知的所有権や商的バリアーのような、障害を取り払う努力をしてきた。

ドナルド・トランプ大統領の政府は、中国に直接かかわり、北京を説き伏せ、その経済を開かせようとして、何か月も要する貿易戦争に相当するものを行ってきた。

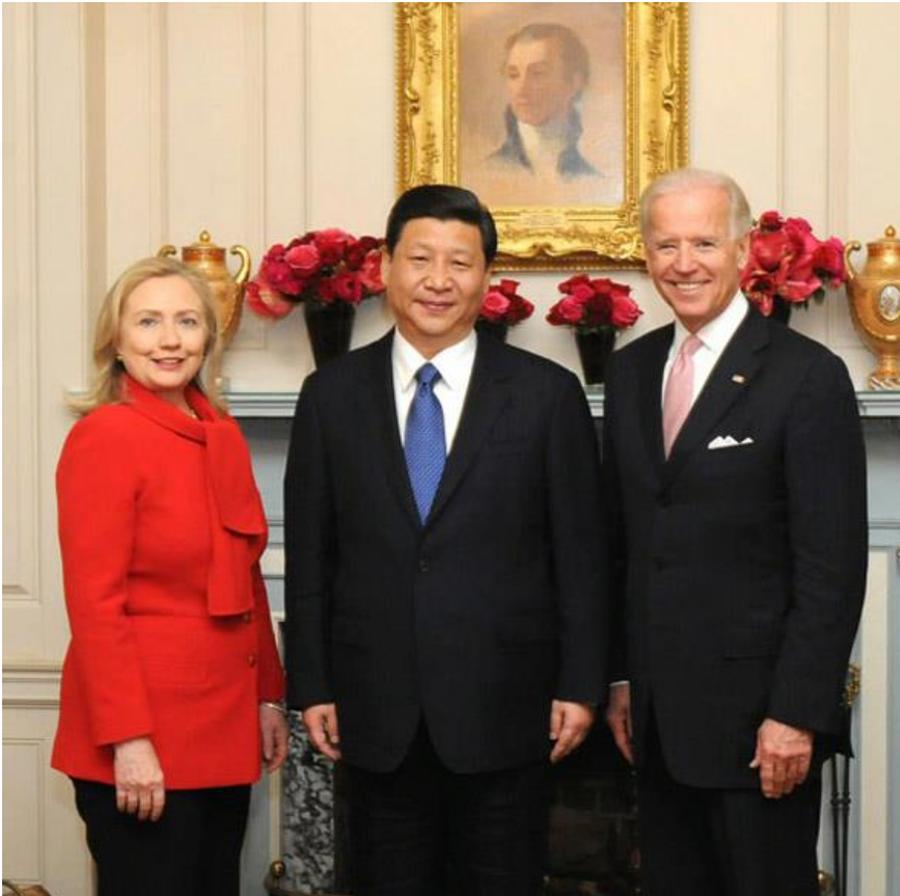
部分的な合意が、今年早々に、世界の2つの経済大国の間に達成された。

しかし、ジョー・バイデンのアプローチは、トランプの強行作戦的な戦略とは異なるであろう。

バイデンは、アメリカは「中国に対して厳しく当たる必要はない」と、『フォーリン・アフェアーズ』の論文で言った。「その道程のルールを作るためには」、その梃子として、同盟関係を利用するのがよく、それが「民主党の利益と価値を反映する」ようにすればよいのだと論じた。

[関連記事] 中国は、バイデン家族のビジネスに、何十億も資金提供している

<https://neonnettle.com/news/7299-china-is-funding-biden-family-businesses-with-billions-steve-hilton-reports>



[Gretchain による注釈]

万一、バイデン政権が実現した場合、どんな恐ろしいことが起こるか、このバイデンの選んだ入閣者の一人の発言からも想像できると思う。これは全体をよく読めば、わかるように思われる。最後の「関連記事」まで見ていただきたい。これは要するに、中国共産党を、アメリカのグローバリスト共産主義の一部として、つまり墮落した、自己の利益だけを図る者たち「1パーセント」の一員として、仲よくしていこうということに違いないで。「バイデン家族」とは、ジョーとハンター・バイデンのことであろう。

もし、圧倒的な選挙詐欺の事実を力で押し潰すような、恐ろしいアメリカ政府が誕生し、これが中国と家族のように合体するなら、我々はその瞬間にでも、言論は完全に統制され、宗教どころか倫理や良心も否定された、家畜の身分へと落とされるだろう。

それは長続きするとは思えないが、少なくとも、ある期間は現実に起こりうることはないかと思われる。現に、選挙運動中にさえそれは起こっている。あの警告の公開状を書いた、民主党「離脱者」が、バイデンの Hands off! のやり方と言っている。これは「お前たちの悪いようにはしないから、俺たちのやり方に手を出すな」ということである。このような主張をもつ党が、どうして圧倒的な票数を得られたのだろうか？！